



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

JCHO 人吉医療センター 第20回研究発表会



平成27年12月19日（土）、人吉カルチャーパレスにおきまして第20回研究発表会が開催されました。今回、院内からは10演題の発表がありました。特別講演では、『日本の医療を考える－38年のアメリカでの臨床経験から－』と題し、社会医療法人財団互恵会大船中央病院 理事長／院長 北濱昭夫 先生よりご講演をいただきました。

一般演題では、それぞれの分野や各職種による取り組み、1年間を振り返っての現状について研究・報告があり、医療福祉連携室からは、臨床心理士の役割と課題について発表しました。臨床心理士が普段どんなことをしているのか教えてほしいとの声もあり、わかりやすく示すことを心掛けながら、緩和ケア病棟での症例を振り返り、臨床心理士の役割や今後の課題について発表しました。

特別講演では、日本の医療制度に対する問題提起から始めていただき、大船中央病院が位置する鎌倉市と人吉市の医療の現状、日本とアメリカの医療環境、及び、医療の質について北濱先生ご経験を交えお話をいただきました。

今回の研究発表会では、他職種の日々の取り組みを把握すると共に、今後のどのような目標を持ち業務に取り組んでいくのか、院内の理解を深め、気持ちを新

第20回 JCHO 人吉医療センター 研究発表会プログラム

2015.12.19 於：人吉市カルチャーパレス小ホール

開会式 14:00～14:05

No	演題名	演者
第1セッション		
1	健診乳腺エコー検査のその後の追跡検討	溝口 真衣
2	臨床の場での看護研究に対するサポート体制の検討	山下 智子
3	2015年顧客満足度チームの取り組み ～医師アンケートからみえた報告時間改善の必要性～	横田 芙蓉子
第2セッション		
4	結核検査 LAMP 法について ～喀痰以外からの検査と肺外結核～	秋永 信代
5	歯性炎症の増悪中に、完全房室ブロックを生じた1例	石神 哲郎
6	当院における臨床心理士の役割と課題 ー緩和ケア病棟の症例をもとにー	乙益 真奈美
第3セッション		
7	職員の子宮頸がん検診受診率の現状と課題の抽出	平生 愛
8	当院の耳鼻科領域の放射線・化学療法の実況	大山 由衣
9	臨床の場での看護研究に対するサポート体制の検討	山下 アヤ子
10	当院の骨粗鬆症外来の現状について ～1年間を振り返って～	星原 孝幸

特別講演 15:40～17:20

『日本の医療を考える』
38年のアメリカでの臨床経験から

社会医療法人財団 互恵会 大船中央病院
理事長／院長 北濱 昭夫 先生

閉会式

たにした機会となりました。外部の考えや取り組み、新たな視点を取り入れながら、患者さんへ提供する医療の質を確保し、更なるレベルアップを目指していききたいと思います。

医療福祉連携室 臨床心理士 乙益 真奈美

生活習慣病予防講座 当院糖尿病看護認定看護師による院外講演

最近、人吉・球磨地域のあちこちで、クリスマスのイルミネーションが美しく飾られているのを見かけるようになりました。これからクリスマス、忘年会、お正月など、飲酒の機会が増えるのではないのでしょうか。そんな中、12月9日に人吉・球磨青年団が主催する「生活習慣病予防講座」で「ストレスからは逃げられない！お酒は飲んでも飲まれるな！～健康で楽しく過ごす方法教えます～」をテーマに講演を行いました。講演の中では、ストレスと糖尿病の関係について伝え、グループワークを通して、一人一人が



自己を振り返り、自分自身の傾向を知る機会を設けました。その上で、間違ったストレスコーピングからの健康被害について知り、健康で楽しく過ごすには、どうすれば良いかを考えてもらいました。最後に、明日から実行できる糖尿病予防や、ストレスコーピングを考えてもらい、一人一人のセルフケア能力が向上できるように働きかけました。受講者のニーズに合った内容であり、60分と長い時間でしたが、受講者全員が集中を切らすことなく、楽しそうに講演を聞き、真剣に今後のことを考えてくれました。

糖尿病看護認定看護師の特化した技術は、「血糖パターンマネジメント」「フットケア」「教室」であり、院内での活動だけではなく、院外での「予防教室」なども、積極的に活動を行っていきたいと考えます。

糖尿病看護認定看護師 根笹 真由美

糖尿病食は日本食を基本に

ヘルパー・ケアマネジャー・管理栄養士・調理師・看護師等を対象にした糖尿病予防研修会が11月26日（木）、球磨地域振興局で開催されました。熊本県は肥満者が多く糖尿病予備軍が著しく増加していることから、人吉球磨糖尿病予防フォーラム実行委員会（委員長：熊本県人吉保健所長）が糖尿病食の知識を深めるために行ったもので、97名の参加がありました。

最初はひまわり亭の本田節さんが、おいしくてカロリーの気にならない、しかも食べると健康増進の期待できる外食メニュー『ブルーサークルメニューの工夫』について講演されました。日本の人吉の多様で新鮮な食材と素材の味わいを活用し、バランスが良く、塩分を控えた健康的な食生活を実現し、日本人の長寿・肥満防止に役立てようとする取り組み内容でした。

私の方からは、糖尿病や血糖値の基礎知識について説明し、その後食事療法について話しました。内容は、食事の量や組み合わせ方について、食物繊維を多く含む食品を毎食摂ること、間食を控えること等です。合併症予防には、

食材そのものが持つ自然の味に慣れ薬味や酸味・香辛料を利用し塩分を少なくすること、油物や肉の脂身を減らすこと、運動の習慣をつけること等です。糖尿病の食事療法は、本田節さんの講演の内容と共通するところが多くありました。糖尿病食とこだわらず一汁三菜を基本とする日本の食事スタイルに近付けることが予防の第一歩に繋がるということです。

参加者からは、本研修で学んだことを毎日の仕事の中で実践していきたいと思いました（ヘルパー）、今後の患者様への指導の参考となるだけでなく、我が家での食事内容を反省させていただきよい機会となりました（看護師）、との意見がありました。

糖尿病食＝日本の食文化「和食」というイメージを持って頂けると気楽に食事療法が出来るのかもしれません。

栄養管理室 大岩 洋子



日本医療機能評価機構の病院機能の認定を更新することができました！



8月18日、19日の2日間に渡り、日本医療機能評価機構の訪問審査を受け、4回目の認定を受けることができました。

日本医療機能評価機構は、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行うことを目的として創設された公益財団法人です。

日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みで、評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。病院は、評価の結果明らかになった課題に対し、改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

当院は2006年に最初の病院機能評価の認定を受け、今回で4回目となります。何回受けても完璧ということではなく、むしろ取り組めば取り組むほど、課題や改善点が出現するのが毎回不思議に感じますが、より安心で安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供できる体制づくりを見直すよい機会と捉え、今後も継続的に改善に取り組んでまいります。

地域包括ケアシステムの構築に向けて 看護部退院支援チームの取り組み

医療は病気を治すことに主眼を置いた「治す医療」から、病を抱えながら生活する患者さんとその家族の生活に医療を通して支援していく「治し支える医療」へと変化しています。病院は生活の場ではなく地域の中で安心して暮らすための資源の一つです。

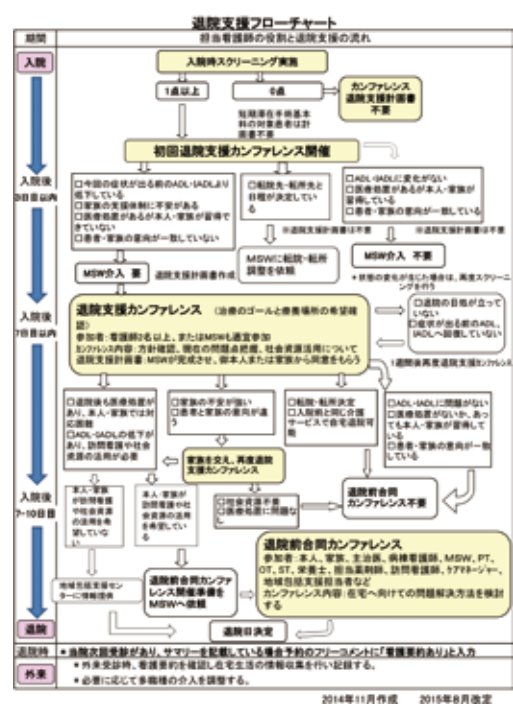
病院から安心して生活の場に戻っていただくためには「退院支援」が重要となります。

当院でも退院支援には力を入れて取り組んでいます。

退院支援において、医師、看護師、MSW 等の多くのスタッフが関与するため、本年度は退院支援フローチャート（右図参照）・マニュアル作成、院内スタッフ向けの学習会（10月9・15・16日開催）を行いました。今後も退院後の生活を見据えた支援の充実を図るため、サマリーやカンファレンス記録の充実やケアマネジャーとの連携強化を目標に学習会の企画などを検討してきたいと思います。

短い入院期間の中でも安心して生活の場に戻れるように地域の方々との連携を強化し、退院支援・退院調整を行っていきたくと考えています。

看護部 退院支援チーム 赤池 直子



人吉医療センター 認定看護師会



認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。

認定看護師は、看護実践を通し、看護現場における看護の広がりや質の向上に貢献します。

認定看護師による研修会に参加してみませんか。

当院には14名の認定看護師が、さまざまな分野で活動しております。

私たちは、地元で研修会を開催し人吉・球磨地域の医療機関で働く皆さんと共に看護を展開したいと考えています。この機会に、認定看護師を活用してみませんか？



第3回 認定看護分野紹介 私たちこんなことをしています！

●認知症看護（山口幸恵）

近年の人口の高齢化に伴い、認知症に関するさまざまな問題が取りざたされています。これは、私たち看護師が活動する医療の場でも同様です。他人事でなく、身近なこととしてとらえ、一緒に考えてみませんか？

●集中ケア看護（財部しのぶ）

集中治療室の患者さんの重症化を防ぎ、回復に向かう支援を役割としています。どのような状態からリハビリを開始するべきかなど、患者さん各々に適した急性期の看護について一緒に模索できたらと思います。

●脳卒中リハビリテーション看護（今田 泉）

脳卒中による機能障害に対して、急性期から生活期まで、セルフケア能力を高めるための計画的で一貫した回復支援が重要とされています。できることから少しずつ一緒に考えていきませんか？

●糖尿病看護（根笹真由美）

糖尿病の患者さんで困ったことや、疑問に思ったことはありませんか？また、患者さんの血糖をどのようにみてコントロールするのかを、悩んだことはありませんか？そんなみなさんの悩みに対応できるよう頑張ります。

* 研修会は、2016年2月頃の開催を予定しております。たくさんの方のご要望をお待ちしております。

認定看護師担当窓口

人吉医療センター感染管理室

☎ 0966-22-2191 FAX 0966-24-2116

登録医リレーエッセイ Vol.22

球磨郡歯科医師会所属の塚本です。常日頃は人吉医療センターの皆様には、大変お世話になっております。我々人吉球磨地方の歯科医療従事者にとっては、人吉医療センターの歯科口腔外科センターは、個人開業医の範囲を超えた治療を必要とする患者の紹介先として、信頼し大変心強い存在となっております。

地方都市の人口の過疎化と高齢化の例にもれず、私が歯科診療所を営んでおります、あさぎり町も過疎化と高齢化の進む地域で、絶対的患者数の減少傾向と共に患者の年齢層を比率で見ると小児の患者数は減少傾向にあり、それに伴い相対的に高齢者の患者数の割合は増加傾向にあります。

よって患者の高齢化に伴い、一人で複数の疾患を有する患者も数多く見受けられます。

かつての歯科医療界では、自分の診療所に自分の足で歩いて来院する健康な患者、いわばローリスクの患者のみ診療していた時期が長く続いていました。

しかし、平均寿命の延びに伴い一人の患者が複数の疾患を有し、その疾患に対しそれぞれの異なる専門職により専門的な治療が施される現在の医療にあつては、我々歯科医師も変化せざるをえない状況になりつつあります。

この頃、言われていますチーム医療を意識せざるを得ない状況になって来ています。

そう言う意味において、人吉医療センターに患者を紹介できる事は複数の疾患を有する患者にとって、それぞれの疾患の専門の先生の全身管理のもとで歯科治療を受けられる幸せに繋がっていくと考えます。

我々歯科界では総合病院内に併設してある歯科・口腔外科を病院歯科と呼んでいます。

この病院歯科がある地域は熊本県では限られた都市部のごく少数の病院にのみ存在するのが実情です。

例を挙げれば、熊本市以外では病院歯科が少なく、熊本県では熊本市の次の人口数の八代市にすら病院歯科が存在しない現状です。

熊本県歯科医師会では、何とか病院歯科を併設してもらうよう各地域に働きかけているのですがなかなか難しいのが実情です。

病院歯科が少ない原因として、病院併設の歯科・口腔外科は採算ベースに乗せるのが大変難しい科だと言われてますし、スタッフの養成にも長い時間を要し、さらに歯科医師には高度で特殊な技術の体得が必要とされるがゆえに増設が難しい科と言われています。

しかしながら、各地域にとっては絶対に必要不可欠な診療科だと考えます。

その病院歯科が人吉球磨地域に存在すると言う事実は、我々歯科医療従事者にとっては安心や安全に繋がり、しいては患者にとっては熊本市内や鹿児島市内の大病院まで通院及び入院する事なく人吉市内での治療が可能である大変な利便性となっております。

この人吉医療センター及び歯科口腔外科センターの皆様を支えに対し、我々人吉球磨の歯科医療従事者は日々大変感謝いたしております。



球磨郡歯科医師会
坂梨歯科医院 塚本 卓也

院内がん登録 2014 年症例集計報告

当院における院内がん登録 2014 年症例を集計をいたしましたので、ご報告させていただきます。

総登録数は 757 件（前年比 8.7% 増）で、過去最多の登録数となりました。そのうち男性 413 件、女性 344 件となり、性別においても過去最多となっています。部位別の件数はグラフの通りで、上位 3 部位は登録開始以来変わらず大腸、肺、胃の 3 部位が占めています。これは、全国集計でも同じ傾向です。

また、年齢では、2013 年までは 70 代が最も多い年代でしたが、今回初めて 80 代が最多となり、地域のがん診療において、超高齢化が進んでいることがうかがえます。性別では、男性の平均が 72.1 歳、女性が 68.1 歳と女性が 4 歳若く、50 歳未満では女性が 8 割を占めます。これには、子宮がん、乳がんや若い年代から発生するがんが関係しています。

そのほかの集計結果は、病院ホームページで公開しています。院内がん登録でみる当院のがん診療です。ご参考頂ければと思います。

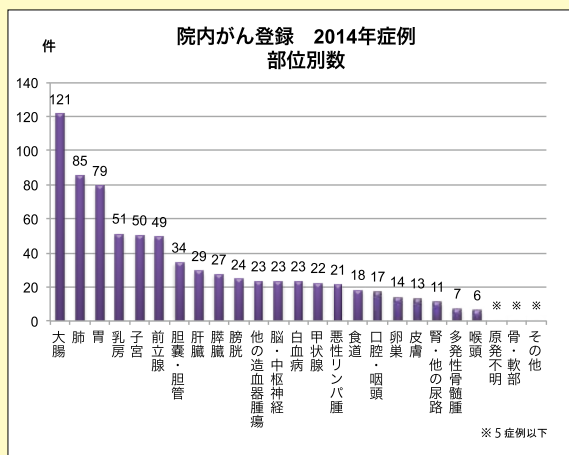
「全国がん登録」が始まります！

2016 年 1 月 1 日より「全国がん登録」が開始され、病院においては義務化されます。これは、日本でがんを診断さ

れた全ての人の情報を、国で 1 つにまとめて集計・分析・管理する新しい仕組みです。そして集められた統計情報は一般に公開されると同時に国や都道府県のがん対策をはじめ、がん検診や治療の体制づくり、がん研究などに役立てられます。

当院でも「全国がん登録」を実施いたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

医事課 花牟禮 由美



1 週間健診・母乳外来の紹介

当院は、人吉球磨地域のハイリスク妊婦や産科出血等の救急患者を受け入れており、H27 年の分娩件数は 12 月現在で 140 件を超えています。分娩件数が徐々に増加しており、外来では妊婦さんへの対応や健診内容の改善に努めています。

厚生労働省が普及を進めている助産師外来ですが、産科医不足が背景にあるのを皆さんはご存知でしょうか。最近、ドラマ「コウノドリ」が放送され、産婦人科のイメージがよく伝わり、興味がわいた方も多いかと思えます。

助産師外来は、正常な妊娠経過をとっている妊婦さんを対象に、妊婦健診や指導を、医師ではなく助産師が行うものです。現時点では、準備が整っておらずまだ助産師外来は行っていないですが、将来的には助産師外来を始めることを目標としています。

産婦人科外来で現在行っている 1 週間健診・母乳外来を紹介します。これは、助産師が中心となって行っているも

ので、必要に応じて医師に診察や処方依頼をしています。

1 週間健診では、退院して 1 週間頃の母親と赤ちゃんの健康状態や乳房の状態を診ています。母乳外来では、出産後の授乳で何か困ったときや、乳腺炎など乳房のトラブルを起こしたときに、個別に対応しています。出産後は赤ちゃんの世話や授乳で疲れていたり、不安になったりする方が多いので、特に注意しながら、少しでもほっとできる時間になるように心がけています。

母乳外来は、当院で出産された方は、1 ヶ月健診までは 2 回無料で、それ以降は 1 回 1500 円です。他院で出産された方は、2000 円です。紹介状をお持ちでない方は、初回 2500 円別にかかります。助産師は、7 名勤務していますので、病棟でも外来でも、なにか困ったときは気軽にご相談ください。

産婦人科外来 助産師 矢立 智春

にしき園看取り研修会実施

H27.11.18（水）特別養護用心ホームにしき園にて看取り研修会を行いました。今回、にしき園からの御依頼で上野緩和ケア認定看護師が講演を行いました。

講演では看取りとは何か？看取りを行うまでの心構えやご本人、ご家族への配慮、声かけなどお話ししました。感想文をいただきましたので、一部掲載させていただきます。

- ・看取りの研修を受け、死に向かわれる利用者様の微弱なサインを見逃さず、「ほっとした」「ありがとう」「ここに来てよかった」「あなたに出会えてよかった」と最期を迎えるまで思っていたかのようなケアができればと思いました。
- ・施設では入所時にお話しをしても家族様はなかなか先のことは分かれられません。状況に応じて面会時の説明やいつその日がくるかわからないことをよくお伝えすべきだと感じます。苦痛なく安らかに家族と過ごされる最後の

時間をこのにしき園を選んで下さった本人・家族様に心から寄り添えると思います。

- ・寄り添うケア、身体的精神的苦痛を緩和させるケア、ケアリングの存在は在宅どこでもできるケアである。家族の関わりなど色々考えさせられる場面もおおくありました。看取りを行う際はまず環境を整えて家族とのコミュニケーションをもつ、日々変化する利用者様の状態を十分家族に伝える。研修で学んだ事を今後の看取りに活かしていけるように頑張りたいと思います。



(にしき園スタッフ)

平成 27 年度 久七トンネル防災訓練

平成 27 年 11 月 26 日、人吉市と鹿児島県伊佐市を結ぶ国道 267 号線久七トンネル内で車両 4 台（車 3 台、バイク 1 台）が絡む交通事故を想定した訓練が行われました。

この訓練は久七トンネル開通以降、毎年行われており、当院がこの訓練に参加するのは今回で 3 回目を迎え、主に始良・伊佐振興局、伊佐湧水消防組合、人吉下球磨消防組合、人吉医療センター DMAT（災害医療派遣チーム）で訓練を行っており、当院からも医師 1 名、看護師 3 名、調整員 1 名の計 5 名で訓練に参加しました。

久七トンネルは高速道路を除き、九州の一般道路では最長のトンネルであり、県境の主要道路となっております。トンネル開通以降、大きな事故は起きていませんが、トラッ

クなどの大型車両が多く交通するトンネルであり、一度事故が起きると多重事故になるリスクが高い道路です。場所が山間で県境でもあるため熊本県・鹿児島

の協力体制の構築や、人吉医療センター DMAT の役割を確認するためにも有意義な訓練となりました。今後も地域の防災訓練に参加し、諸機関との連携を構築・再確認し、非常時に備えていく必要があると学びました。



人吉医療センター DMAT 看護師 立開 光義

第18回 ビーチボールバレー大会

11月27日 人吉スポーツパレスにて第18回ビーチボールバレー大会が開催されました！

お揃いのTシャツで出場しているチームが沢山あり、当院の盛り上がるイベントの1つとなっています。

いざ試合が始まると選手だけでなく応援者も一致団結し優勝を目指して熾烈な戦いが繰り広げられ、上位決定戦になるにつれ、より白熱した試合が行われていました。

個人的には萩先生の剛速球アタックが一番印象に残っています。多くの方があのアタックに苦戦されたことと思います。

他にも多くのファインプレー、時には珍プレーもありいたるところから賑やかな声が聞かれました。

今年は1位 テュロテップパッチ(8階)、2位 Team CE&Ns(臨床工学室)、3位 眞浩丸 歩(7階)という結果になりました。



当日はとても寒かったのですが、その寒さも忘れてしまうほど盛り上がり、より各部署の団結力が深まったのではないのでしょうか。

来年は私の部署でもTシャツを作り、上位を狙いたいと思います。参加された皆様本当に疲れ様でした。

医療福祉連携室 社会福祉士 小田 薫子

めずらしいメダル

11月も終わろうとしたある日、小学1年生の娘が珍しいものを拾ってきました。

彼女と遊び仲間たちが秘密基地と呼んでいる、西間下町の病院宿舎の敷地の一角の地面に突き刺さるようにしてそれはあったと娘は言います。



黒味がかかった銀色のメダルでした。よく見ると昭和11年に行われた九州一周駅伝の参加賞として選手に贈られた物であると旧漢字で刻印されています。

インターネットで調べたところ、有名な九州一周駅伝は戦後に始まり2年前の大会でその長い歴史を閉じています。戦前にどんな形で行われていたのかはネットで調べても不明でした。

宝物にすると大事そうに手にメダルを持っている彼女を見ながら、本来の持ち主がどんな人だったのか思いを巡らせて一日が終わりました。

産婦人科 星原 孝幸

第129回 清流ハートクラブ・ウォーキング開催！

月1回行われている清流ハートクラブ(心臓リハビリテーション患者会)も今回で129回を迎えました。昨年に引き続き、「取り入れよう！！日常生活の中に10分ウォーキング」



と題して、屋外でのウォーキングを実施し、患者さん約20名の参加をいただきました。

天気にも恵まれ、10月としては汗が出るほど暑いくらいの気候でしたが、みなさんそれぞれの歩調に合わせて最後まで完歩されました。

まず、はじめに当院理学療法士の指導のもと、リハビリと同じようにバイタル測定、準備運動を行い、スタッフと共に出発しました。旧看護学校体育館から市役所の方へまわり、川沿いを戻ってくるという約1.2kmのコースでしたが、大きな事故もなく、みなさん無事に帰ってこられました。最後に整理体操を行い、記念撮影をして終了しました。

患者さんからは「日頃歩いていても疲れた」「どれくらい歩けばいいかわかった」などの声がきかれ、思い思いのウォーキングを楽しめました。

清流ハートクラブ事務局 金栗 由佳

総親会忘年会



12月19日(土)研究発表会後、会場をあゆの里に移し忘年会を開催しました。

院長挨拶、来賓紹介が行われ、モニター委員長をはじめ様々な場所でご尽力いただいております大瀬敏克様による乾杯のご発声で忘年会が始まりました。

そして毎年恒例となっている各部署新人による出し物行われ、大いに会場を沸かせていました。どのチームも趣向を凝らしており、あっという間に時間が過ぎていきました。

今年も色々な方々にお世話になり、厚く御礼申し上げます。来年も何卒宜しくお願いいたします。

12月の勉強会報告

12月8日(火)第57回人吉・球磨最新医療研究会

「副鼻腔炎と鼻副鼻腔内視鏡外科」

熊本大学大学院生命科学研究部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野
教授 湯本 英二 先生

12月17日(木)第58回人吉・球磨最新医療研究会

「胃癌治療の最新トピックス」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器・乳腺甲状腺外科学
教授 夏越 祥次 先生